

平成29年度第4回阪南市市民協働推進委員会 会議録

名称	平成29年度第4回阪南市市民協働推進委員会
開催日時	平成29年11月20日（月） 午後6時00分～午後7時50分
開催場所	阪南市役所 別棟1階第2会議室
出席者	【推進委員】吉田委員、有田委員、今井委員、中本委員、横田委員、堀野委員、猪俣委員、砂本委員、川崎委員 9人出席 【事務局】地域まちづくり支援課 穴道課長、辻野主幹、松尾主幹、岩下総括主事、古谷主事
傍聴人数	1人
議題	平成30年度の市民協働事業提案制度及びアイデアシート（案）の検討について 市民協働庁内推進研修について
資料	資料1 平成30年度市民協働事業提案制度について 資料2 まちづくりを一緒に取り組むための種シート 資料3 市民協働庁内推進研修について
要旨	平成30年度の市民協働事業提案制度及びアイデアシート（案）の検討について、資料1、資料2に基づき、事務局より説明。 市民協働庁内推進研修について、資料3に基づき、事務局より説明。
会議	<p>【平成30年度の市民協働事業提案制度及びアイデアシート（案）の検討について】</p> <p>事務局 平成30年度の市民協働事業提案制度及びアイデアシート（案）の検討について、資料1、資料2に基づき、事務局より説明。前回の推進委員会でのご意見を基に作成したシートについて、タイトルや流れについてのご意見を求める。</p> <p>（推進委員からの意見、質疑・応答）</p> <p>委員長 通常の提案制度は、今までと一緒ですが、提案件数も少ないこともあり、提案制度に至るまでのところで少しハードルを低くして、出しやすくしようというような種シートを作ったということです。 個人と団体と2種類あり、一見同じように見えるのですが、よく見ると違うところがあります。提案制度自体は変わる訳ではなくて、気軽に一度出してみようというものになります。少しでも皆さんのご意見を伺って、良いものにしていこうということです。デザインなども含めて、忌憚のないご意見をお願いします。資料1は、応募される方が見るものではなく、会議用の資料になります。 どのようなメンバーになるかは分かりませんが、審査部会のようなところで確認をして、個人の場合は、広報誌で賛同者を募る、または既存団体とマッチングする、市民活動センター等で支援していくということが考えられます。団体も同じように、市民活動センターでサポートして、うまくいけば、提案制度につなげるというものになります。</p> <p>委員 今までのシートと比べると、カラーでデザインも柔らかい感じがあって、このシートであれば応募してくれるのではないかと思います。設置場所ですが、市民活動センターと地域まちづくり支援課の2ヶ所だけですか。2ヶ所だけだとハードルが高くなるかもしれません。もっと身近に皆さんが集まる場所、たとえばあたごプラザなどに箱やこのシートを置いてもよいのではないかと思います。審査の回数は、3カ月に1回になるのですか。</p> <p>委員長 たくさん置いていけば置いているほど、皆さんに知ってもらえる回数も増えます。委員会の回数が3カ月に1回くらいに開催しているので、約3カ月に1回と記載しています。</p> <p>事務局 募集自体は、常時行っていますが、委員会の際に合せて審査していただくことを想定していますので、約3カ月に1回ということにしています。 ご意見いただきました、色々なところに置いてはどうかということですが、委員のようによくご存じの方が勧めていただければよいのですが、置いているだけではなかなか応募までには至らないと思います。このようなシートがありますよというのは色々な場所で広報させてもらえたらと思います。ただ、箱を置くとなると、個人情報を書いていたので、管理の問題もあります。</p> <p>委員長 個人情報のこともあるので、市役所としては管理の問題もあります。PRは色々なところであるということですので、市役所前のセブンイレブンは、人がよく来ています。店にも地域貢献ということで、広報させてもらえませんかとか声をかけてもらえたらと思います。このようなものがありますよというポスターのようなものは貼らせてもらってもよいのではないかと思います。</p>

- 委員 前回欠席しているのですが、的外れでしたら、すみません。種シートに出てくる「審査」という言葉が、提案制度でも「審査」という言葉を使っているのですが、どの審査かわかりにくい気がします。
- 委員長 審査といえば審査だけど、提案制度の本当の審査に持っていくまでのアイディアの吸い上げが主旨になるので、もう少し柔らかい言葉がないのかということですね。何か良い言葉はありますか。
- 委員 「検討」、「協議」、「種拾い」などはどうでしょう。
- 委員 資料1の中に、非該当という言葉があるのですが、提案制度では非該当ですが、市政運営には非常に良い提案、要望の可能性もありますし、そのようなものも広く受け止めて、その上で適切な制度に振り分けていくというイメージが伝わると良いかと思います。その制度に見合うように作って提出となると、またハードルが高くなります。
- 委員 提案制度に繋がっていくというのは、提出する人は分からない。事務的なことは、提出する人は知らなくても良いのではないかと思います。字が多く、小さいので、誰を対象にして作っているのか、高齢の方であれば、読みにくい。高齢者でもない、こどもでもないの、よく分からない。募るのであれば、これは次の段階で渡せばよいのではないかと思います。ゆるい感じのポスターがあれば良いと思います。
- 委員長 色々ご意見をいただきました。字が多いという話とターゲットがわかりにくいという話と、もう一段階前のものがほしいという話でした。ポスターが必要になってきます。
- 委員 先ほどの「審査」という言葉以外で考えたのですが、「受理」という言葉はどうかと思いました。
- 委員長 「受理」という言葉だと、いけたように聞こえてしまいますね。
- 委員 「受理」は、受付しましたOKですというように捉えかねないということですね。
- 委員長 たとえば要望でも、要望を受理しましたといういうと、してくれるのだなと思う気がします。要するに人ごとにだけならないように、自分たちで活動してもらおうということが大切なことです。
- 事務局 補足説明ですが、団体用と個人用の一緒に議論が進んでいますが、提案制度では、5人以上の団体でない応募できないということがあります。そこで、個人でもアイディアを出したいという時に、賛同者を募りましょうということで、この個人用のシートを用意しているところがあります。個人用で「審査」という言葉にしているのは、あくまでも個人で提案をいただいて、その賛同者を市の広報誌などで掲載するとなってくると一定の審査を通る必要があるため、ここでは「審査」という言葉にしています。個人用につきましては、提案制度に応募するために賛同者を募るということで作成しています。団体用につきましては、アイディアがあれば教えていただけませんかというところで、個人用とは少し違うところもあります。
- 委員長 資料1の①～④は、この順番で進むという訳ではなくて、4通りの道があるということです。事務局より説明のあった広報誌に掲載し、賛同者を募るという道、既存の団体とマッチングする道、もう少し育てましょうという道、これは少し違うなという道があります。

- 事務局 個人であればこの4つくらいの道に分かれてくるように考えられるため、資料1にこの4つを記載しています。
- 委員長 資料1の①市の広報誌に掲載し、賛同者を募るのであれば、一定のものを超えなければならない。そのため「審査」という言葉を使ったということです。「審査」がしっくりくるパターンもあれば、委員がご指摘のような別の文言の方がマッチしてくるパターンもあり、なかなか難しいです。
- 委員 提案制度の応募数が少ないことから、応募していただきやすくするために、このようなシートを作成するという話だったと思います。このシートはシートで、この前段階に貼れるようなポスター的なものを過去の事業をイラストや写真で載せたものを作成して、まずは、興味を持っていただくようにする。興味を持っていただいた人に向けてシートを渡すという段階を追っていった方が、良いのではないかと思います。急がばまわれではないですが、一度に何もかもしようと思わなくても良いと思います。余計に手間がかかってしまうかもしれませんが、どこにでも貼れるようなポスターを作り、興味を持っていただいた人には、このシートを説明しながら、お渡しする。そのような手順を踏めば、応募者が増える可能性もあり、わかりやすいと思います。
- 委員 今年から開始しているリサイクルブック事業については、我々は委員なので、市民協働事業であることなどをよく知っているのですが、知らない人も沢山います。提案制度で採用になったという経緯を知らない人もいると思います。このような提案も採用されますというイメージがあれば、アイデアが頭の中にあっても、それを一歩踏み出せない方が、私もしてみようかなという風になるかもしれません。
- 委員長 これまで提案事業でうまくいっているものを皆さんにわかるような見せ方をすることですね。いずれにしても、もう少し知ってもらうためのチラシやポスターをできないかというご意見は出ています。
- 委員 対象がわからないという他の委員からのご意見がありましたが、対象は誰でもよいというのはわかると思います。
- 委員 確かに誰でも良いのは分かりますが、幅広く知ってもらえるような書き方というのが必要になってくると思います。
- 委員長 シートは、だいぶ柔らかい表現になっています。
- 委員 興味を持ってくれた人に勧めるシートであれば良いのですが、シートだけでPRするのはしんどいのではないかと思います。
- 委員 PRするものと、このシートは分けた方が良いかもしれません。
- 委員長 このシート内で全てを表現するというのは無理があるので、皆さんに知ってもらおうというものは徹底してわかりやすく、人目につきやすいところに貼ったり、広報誌でPRしましょう。
- 委員 シートは、事務局から説明があったとおり、少し説明を加えながら渡す方が良いと思います。

- 委員長 そうですよね。説明がないと流れがどのようになるのか理解してもらいにくい。あくまでも提案制度の流れがあって、そこに乗るまでのステップだということを、応募する人や、これから応募してみようという人にわかるようにしなければならないので、ポスターなどで周知すれば良いと思います。
- 委員 デザインはこれ以外にあるというように事務局から説明があったと思うのですが、ちなみにどのような感じですか。
- 委員長 デザインといっても、少しだけカラフルなだけです。少し整理しましょう。このシートになにもかも入れて実現しようというのは、無理なので、皆さんに知ってもらおうということが元々の主旨ですので、ポスターかチラシで周知しましょう。これは皆さんご了承いただいています。提案制度での成果、たとえばリサイクルブックなども実績として知ってもらいましょうということもおっしゃるとおりです。他にはいかがでしょうか。
- 委員 提案制度があるというのは、団体の皆さんなどは知っているのでしょうか。そもそも提案制度自体のPRに説明に行くなどしているのでしょうか。このシートに書いてくださいだけではなく、PRが重要だと思います。
- 委員長 せっかく提案制度で事業をしているので、市民の皆さんに知ってもらおうということが大切になります。
- 事務局 市民公益活動団体に登録されている団体には、送付させていただいています。説明会などを開催しており、ご連絡させていただいていますが、100団体ほどあるので、なかなか来ていただけないというのは現状です。届いていても、なにか届いているくらいで終わってしまうことも多いのだと思います。
- 委員長 提案制度に基づいて、事業を進めているものは、これは提案制度で事業をしていますというのを各課でチラシを作る時には載せてもらうと良いのだと思います。皆さん言うように、そもそも提案制度の周知もまだまだなので、これも当然していかないとはいけません。どこまでできるかはわからないけど、していく必要があるというのは、委員共通の想いです。その上で、このシートはいかがでしょうか。
- 委員 文言は別として、これでほぼ良いと思います。
- 委員 1枚このシートがあるだけでハードルはだいぶ下がったと思いますので、種シートという名前も良いですし、常時、いつでも思いついた時に申し込めるというのも良いと思います。
- 委員 気になった点として、同じ人が沢山の複数のアイデアが出された時に、実現の可能性はともかく沢山のエントリーした場合にどうするか。また、団体でよくあるのが、代表者の想いだけで提出して、団体で共有できていないこともあります。私としては、もう少し前段階でエントリーだけする方法も良いのかと思います。まずは、プロセスを踏む必要があります。このシートでも難しいと感じる人もいるかもしれませんので、まずは、名前や連絡先を記入するだけの簡単なエントリーをもらう。そこから具体的な内容を作りこんでいくというのが大切だと思います。3つくらい段階を踏まないとなかなか難しいと思いました。その前段階でのお手伝いも必要です。
- 委員長 まず審査部会というのは、このような推進委員会で約3カ月に1回、2時間くらいで会議を行っているのですが、限られた時間になるので、指導のようなものは当然できないと思います。市民活動センターで審査をする前にチェックしていただけるのであれば良いですけどね。
- 委員 エントリーシートであれば、インターネットでもできると思いますので、用紙に書いてもらわなくても、氏名と連絡先だけで申し込めるようにもできます。

委員長 このシートを作り上げていくのも伴走型のように一緒に見てあげながらしていただけるのであれば有難いですけど。

委員 もちろん提案制度まで持っていけるかはわかりませんが、伴走しないと数は出て来ないと思います。

委員 まずは出してもらうことが大切です。

副委員長 委員の言うことはもっともだと思いながら、事務局の立場に立って発言します。前回の9月開催した推進委員会の資料は皆さんお持ちですか。委員は数名欠席されていたのですが、前回の資料は、今委員が言った案そのものなのです。アイデアが出たら、市民活動センターを通して、審査部会で見るという流れだったのに、前回の委員会の中で、市民活動センターが対応できる体制があるのか、市民活動センターばかりに任せてよいのか、地域のことを知っている自治会の代表がいるこの委員会から委員を出すような体制を作って、そこで見る仕組みを作りましょうということがあって、今回提示の資料のような流れになっています。委員の意見を否定する訳ではありませんが、前回のことも踏まえて考えないといけないと思います。前回このような流れでこのようになりましたというような対比できるような形の資料にすると分かりやすいと思います。

副委員長 広報についてですが、従来の提案制度は分厚いしわかりにくいところもあるので、A3で折るタイプの簡易版を作ったと思います。議論があるとすると簡易版に何が足りないかということ議論した方がよいので、それも併せて挟み込もうと思うけどということ言えるように、そのツールを併せて持ってくる方がよいと思います。委員も数カ月前のこと忘れてしまうので、単発でひとつずつ議論するのではなく、後退してしまうこともあるので、事務局もセットで出してくれた方が良かったと思います。A3の簡略版には、提案制度のことを書いているので、個人用についての記載はありませんでした。それを改定するのであれば、改定するものを見せてほしいなと思います。事例なども全てでないけれど、載せていると良いと思います。

委員長 このシートで提出されたものを事業として進めようということなので広報誌に載せるか既存団体とつなげるのかということだと思います。さらに前段階のステップをつくれればどうかという意見もありました。

副委員長 市民活動センターに提案制度に応募したいという人はどれだけ相談に来ているのでしょうか。

委員 提案制度についての相談はあまりありませんが、通常の相談件数は増えています。

副委員長 市民活動センターの位置付けがそもそも提案制度だけでなく、色んな活動の相談をし、アドバイスを受けるといのが役割なので、それはそれでやっていただく。今回は、協働事業でやりたいけれどどうしてよいか分からない人がシートで応募するものなので、委員が言うように簡易なエントリー形式のようなものをするかしないかは置いておいて、市民活動センターだけでなく、自治会や校区福祉委員会などが入っている仕組みの方が良いのかどうか。

委員 副委員長が言うように、前回の資料を見ると、確かに市民活動センターで先にマッチングをすると書いてある。マッチングできなくても、審査をする。その際には、地域のことをよく知っている自治会や、校区福祉委員会などこの推進委員会からメンバーに入ってもらってはどうかという話が出ていました。

副委員長 市役所だけで審査しません、開かれたというか市民参加の元で、審査をしますよというものです。

委員 それであればなおさら、審査ではなく、アドバイザー会議のような名前の方が良いのかもしれない。

副委員長 マッチングするのも市民活動センターだけよりも地縁団体が入った方がより良いのではという話だったと思います。

委員 ただ、メンバーの人選をどうするかという問題があります。地縁であれば、利害関係のある場合などがあります。たとえば、ある地域である活動をしたいとなっても、その地域の代表からするとあまりよろしくないというようなこともあります。そのため、その辺りの人選というのは誰がどのように決めるのか。

副委員長 それはこの委員会で良いのではないのでしょうか。自治会連合会会長としてこの委員会に入ってくれているので、自治会の代表が良いと思います。

委員 全員ということですか。

副委員長 それは、社会福祉協議会からの代表である方と、自治会連合会の代表の方を入れたら良いのではないのでしょうか。

委員 そのような決め方ではだめだと思います。役割で決めるのか、アドバイスをするのであれば、適切に出来る人を選ぶ必要があると思います。その辺りのルールはしっかりしないといけない気がします。

事務局 審査部会での審査というように資料に記載しています。審査部会は、すでに委員長から任命いただいております。審査部会という表現が今回適切かは置いておいて、そのような形で任命していただいたものであれば良いのかと思います。今年度は1度しか審査部会は開かれておりません。その1度は、提案制度ではなんなん音楽を親しむ会が出していただいた事業について、書類審査をしています。先程から議論していただいている体制として、市民活動センターが審査部会に参加する方法は考えられると思います。

委員長 本格的な提案制度の審査は、もちろん審査部会でする訳ですし、その前の段階ですのであれば、なにがしかの選別をしてしまうので、同じ主体がするというのはグレーな感じがします。提案制度の前の段階できつくしてしまうのは本意ではないです。心配なのは、前回出ていた意見として、市民活動センターには職員が1人の時が多いのでマンパワー的に大丈夫かという話もありました。その辺りは大丈夫でしょうか。

委員 私が行く時は、大体1人です。たまに2人の時もあります。

委員 毎週火曜日に相談日を設けています。そこに来ていただければ問題ないです。他のスタッフも現在、研修しているところですので、相談にのれるようにレベルアップできるようにしています。気になっているのは、審査とアドバイスが併存しているので、切り分けをどうしていくか。

委員長 提案制度は、審査部会で審査をします。その前のところで、このようなシートを材料で、これがあくまでもアイデアシートという訳です。これが提案制度の応募用紙という訳ではないので、審査というのはどうかと思いますが、ある種このシートが通れば、広報誌に載ることが出来る訳です。どうしましょうか。委員が言っている相談のようなものはどのみち市民活動センターでもらう必要があると思います。ここに書きこむことなく、わからなければ市民活動センターに聞きにいけばよいので、書き方を含めて相談してもらおう。スキップして、提案制度の申請書を書いていただいてもよいと思います。

委員 相談日は前には火曜日と木曜日と言っていませんでしたか。

委員 基本的には、火曜日に行っています。井戸端会議は木曜日です。

委員長 このシートどのようにして書いたら良いのかという人が来た場合は、火曜日に来てもらって、アドバイスもらせてくださいという話ですね。少し整理しますとアイデアがあるけれど、どのようにしたら良いか分からないという人は、火曜日に来てもらう。審査のメンバーは、提案制度の審査と同じメンバーであるのか、それとも違うメンバーの方が良いのか。提案の数を増やすことも考えないといけないので、利害関係などあまり心配するのでもどうかと思います。チェックまたは審査をするのは、誰がしましょうか。

副委員長 個人で提案制度で応募したい場合は、自分で声をあげて自分で仲間を募ることができ。これが1つ目になると思う。2つ目は、自分で仲間を募れない人は、市なのか市民活動センターなのかなんらかの仕組みによって、広報誌に載せるなど仲間を募る方法を提案してくれる。広報誌でもなくても、市民活動センターで貼り紙をして、一緒にしたい人いませんかボードを作って貼り紙してもよいと思います。広報誌に載せるにも1ヶ月前に原稿を担当課に出す必要があるなどがあります。3カ月に1回の推進委員会の際に見るのであれば、半年くらい待ってもらわないといけない可能性があります。随時応募できるけれども、賛同者を募れるのは半年後ですということが有り得ます。ウェブサイトで広報してくれる訳ではないので。

事務局 資料に広報誌などと記載しているとおり、ウェブサイトでも可能です。

副委員長 随時というものの、広報誌だと時間がかかります。3つ目として、市民活動センターなどが、マッチングしてくれる。ここには、なんらかの仕組みや公開性、信用保証、説明ができる必要があるのではないかと思います。仲間探しのお手伝いかマッチングか、あるいはアドバイスの3つくらいで良いかと思ったのですが。これは、審査部会に属していない委員が自主的にしていただければ有難いと思います。

委員 前回の推進委員会でご意見があった、市民活動センターで対応できるか不安であるというところが、不安がないというのであれば、基本的なところを市民活動センターにお願いできればと思います。

副委員長 逆に言うと、市民活動センターがやりやすいようにするのが一番良いと思います。完璧というのはいきなりは難しいと思います。暫定的にこれで一年試してみて、この仕組みを考えましょう。

委員長 個人では出せないで、自分で組織をつくるか、仲間づくりをするのか、既存の団体とマッチングするのかみたいな話だと思います。

副委員長 これはいつまでに作り上げるのでしょうか。広報はいつからですか。

事務局 広報は1月号の広報誌で掲載し、来年の4月の提案制度の応募にできればつなげたいと考えております。

副委員長 来年の4月の提案制度の応募にできればつなげたいということですね。

委員長 広報誌に載せるのであればなにかしらの審査が、必要とのことでしたか。サポートをするのが、あとで提案制度で審査するメンバーだとまずいのではないかというお話がありました。審査部会のメンバーと違うメンバーでチェックする。

事務局 広報誌で賛同者を募るとなると一定の審査のようなものが必要になると考えます。

委員長 確かに市が広報誌に載せるとなると、市が認めたいみたいになる気がします。

事務局 広報誌に載せるとなると、なぜ私のは載せてくれないのかというような話があるといけませんので、一定の審査が必要になると考えます。

委員長 広報誌に載せない方が良いのかもしれないですね。

- 事務局 広報誌はなくて、さきほどご意見のあった市民活動センターでポスター貼るなどの賛同者の募り方をするのであれば、そこまではいいですね。
- 委員長 市の広報誌には載せない方がいいですね。ちょっとしたお墨付きになってしまいます。自由なものにならないですね。
- 委員 市民活動センターのウェブサイトではどうでしょう。
- 委員長 掲示板のような形であげてこの指とまれ形式でする方がいい気がします。
- 副委員長 受付は市ですか。
- 委員 受付も含めて、全てを市民活動センターでされるというのであれば、一番良いのではないのでしょうか。
- 委員長 これが提案制度の申請書とリンクしてしまわない方がいいように思います。
- 委員 シートの提出先が市民活動センターと市と二か所になっていましたので、できる限り市を通さない方がいいと思います。提案制度にのった時にはじめて、市がからむ形がいいと思います。そこまでの間を活動センターで見ってもらうのがはっきりしています。
- 委員 提案制度の応募できる活動実績というのは1年以上とありますが、どの時点からの1年になるのでしょうか。
- 委員長 日付の入った規約などを出してもらう必要があります。それが根拠になると思います。
- 委員 提案制度では共同体での提案も可能ですよね。
- 事務局 リサイクルブックの提案も、共同体で、実行委員会のようにしていただくのも構いません。
- 委員長 案をじっくり作っていくというのは良いことです。
- 委員 審査のときに来てもらうのもお金を出すのか出さないのかというようなこともありますし、そうなってくると市民活動センターもやりにくいのではないのでしょうか。前回の会議で、市民活動センターの人員体制では不安があるという意見が出てきた。ただ、不安ないですよというのであれば、市民活動センターの普段の中間支援組織の機能として地縁型とのマッチングを含めて、市民活動センターが大丈夫なのであれば、わざわざ新しい仕組みをつくらなくても良いのではないのでしょうか。
- 委員長 提案を市民活動センターでチェックするという表現にすれば良いと思います。提案制度の審査はするので、そこにいくまでをそれほど厳しくしなくても良いのだと思います。委員が入る仕組みの方が良いけど色々な問題があるので、市民活動センターでお願いし、柔軟にするのが良いのだと思います。



委員 市民活動センターでは、判断を迷うような案件の時は、推進委員会にあげさせてもらって判断してもらえたらと思います。

委員長 迷った時は推進委員会で意見をいただくということにしましょうか。シートは、市民活動センターでチェックします。書くかどうかわかりませんが、判断が難しい場合については、推進委員会の意見を聴取します、ということです。3カ月に1回はいらわないですね。知り合いに声をかけてもらって盛り上げていってもらったらと思います。

委員 市民活動センターの相談は火曜日しかありませんもんね。

委員 メールのやり取りや、電話であればできますので、対面以外でしたら火曜日でも大丈夫です。

委員長 文言のところをなおしてもらって委員に情報提供してもらえればと思います。

#### 【市民協働庁内推進研修について】

事務局 市民協働庁内推進研修について、資料3に基づき、今年度実施している研修内容について事務局より報告。

#### 【その他】

委員 猪俣委員より桃の木台地区における「子ども福祉委員」について、中学生12名が地域で活動をスタートしたことを報告。

委員長 それでは、本日の推進委員会を終了します。